

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【生きる】 2【かかわる】 3【そなえる】	④【夢や希望の大切さ】夢や希望を持つことは、生きる価値を見いだすことであり、つらく厳しい状況乗り越えられることにつながることを実感する。 ⑩【県内外や海外の人々とのつながり】苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し共に協力することの大切さを実感する。 ⑫【自分と地域社会】自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きとしたまちづくりにかかわる。 ⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	総合 (2日間)

【題材】陸前高田市被災地学習（宿泊研兼ねる）

【対象】小川中学校第2学年（男子8名、女子13名 参加）＋校長、2学年所属教師3名

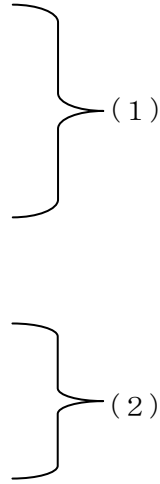
【実践への経緯】

H25より学年毎に被災地を訪問して、被災や被害の様子について学習し、現地で復旧・復興に携わる人と共に視察をし、被災者との交流を実施している。H26は、「いわての復興教育学校支援事業」からの補助を受け、例年、4月に田沢湖・盛岡方面で実施していた宿泊研修とを兼ねて、9月に陸前高田市で被災地学習を行うこととなった。

【日程】

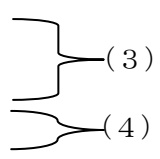
< 1日目 9月2日（火） >

- 7:30 小川中学校集合・出発（国道455号～国道45号ルート）※中型バスで移動
- 12:30 陸前高田市着 昼食後、「希望の灯り」見学及び説明慰霊施設で献花・黙祷
高台より市街地展望、
- 14:00～戸羽市長講話（陸前高田市庁舎）
- 15:30～嵩上げ用ベルトコンベアー見学「気仙町造成地」「奇跡の一本松」見学
- 17:10～気仙中学校見学（避難の様子を説明：中里教諭 前年度 気仙中所属）
- 18:00～宿舎到着（大舟旅館：陸前高田市気仙町）
- 18:30～夕食
- 19:00～他県から支援に来ている方々との交流（クラスを3つに分けて交流）
 - ① ボランティア・レンタルDVD店経営 高橋哲平さん（東京出身）
 - ② 瓦レキーホルダー・レストランスタッフ 坂口恵美さん（北海道出身）
 - ③ 復興商店街事務局 山本健太さん（福岡県出身）
- 20:00～見学のまとめ記入（同時間に交代で入浴）
- 22:00～就寝



< 2日目 9月3日（水） >

- 6:00 起床
- 7:00 朝食・出発準備
- 9:00 「桜ライン」事業説明及び植樹予定地見学
- 10:30 仮設住宅住民との交流会（竹駒町）
- 12:00 昼食
- 12:30 陸前高田市発（国道340号～東北自動車道から国道455ルート）
- 16:00 学校着



(1) 陸前高田市街地展望～慰霊施設献花～戸羽市長講話～奇跡の一本松～気仙中学校見学

「希望の灯り」を囲みながら、語り部から3つのお願いの話を聞く。市役所庁舎に移動し、戸羽太市長の講話を聞く。自分で判断することの大切さ、当たり前が当たり前でなくなる辛さ、仲間の大切さ、相手の身になること等のメッセージから多くを学ぶ。希望の架け橋や奇跡の一本松を見学後、気仙中で当時勤務していた中里先生から当時の被災・避難の様子の説明を受け生徒の真剣味が増した。



「当たり前が当たり前じゃなくなったという話を聞き、一日をもっと大切にしていこうと思います。」(男子生徒S)

(2) 他県から支援に来ている方々と夜の交流会

3つのグループに分かれて、ボランティアの最前線で活躍している若者と触れ合った。山本健太さん(福岡出身)からは、つどいの丘商店街で街作りに関わる様子が、高橋哲平さん(東京出身)からは、東京から駆けつけレンタルビデオ店に務める経緯が、坂口恵美さん(北海道出身)からは、瓦礫からキーホルダーを作るに至った経緯を学び、生徒達は大いに刺激を受けた。



「瓦 Re:KEYHOLDER」のプロジェクトはすごいと思いました。カフェ頑張ってください。食べに行きます。」(女子生徒H)

(3) 「希望の灯り」見学～「桜ライン」事業説明と植樹予定地見学

2日目、桜ライン代表の岡本翔馬さんから、桜の苗を実際に植樹している現地で説明を受けた。多くの友人を亡くした悔しさから、大地震が来ても、これより高い所に逃げれば助かるという目印として20年かけて1万7千本の桜の苗を植えること、震災を教訓にして災害によって亡くなる人をゼロにしたいこと、仲間と共に立ち上がり、リーダーとして活躍している様子などから多くのことを学んだ。



「1万7千本というたくさんの桜を植えて次の災害の警告にもなると思うし、とてもきれいに咲くと思いました。頑張ってください。」(男子生徒N)

(4) 滝の里仮設住宅住民との交流会

中学生が仮設を訪れることは少なくなった滝の里仮設住宅の皆さんと交流会を開催。22人余りが参加。合唱「ハンドインハンド」とソーラン節を披露した後、お菓子等を食べながら、お互いの話を聞き合い楽しく交流。帰り際に、生徒から仮設住民の方々へエールを送り激励する。住民の方々の喜ぶ姿を見て、生徒の心にも充実感が広がった。



「私たちの発表を見たり聞いたりしてくださり、ありがとうございました。手拍子してくれたおかげでいつもより明るく発表できました。」(女子生徒M)

【まとめ】壊滅的な被害を受けても、仲間と共に被災から立ち上がって、復旧・復興を進めている人々に触れ、困難に負けず前へ前へ進むことの大切さを学ぶ、貴重な機会となった。